

2018年12月1日

2018年 BFJ 国際審判員派遣レポート

一般財団法人全日本野球協会（BFJ）のアマチュア野球規則委員会は、アマチュア野球審判員の技術の向上および人材の確保などを図ることを目的として、「公認審判員の登録・資格制度」（ライセンス制度）を2015年4月に開始しました。このライセンス制度では、「3級」、「2級」、「1級」、「国際」のライセンスに区分されていて、約37,000のBFJ公認審判員のうち、27人が国際審判員に認定されています（2018年12月現在、他に女子審判員3人が仮認定）。なお、国際審判員一覧（写真、所属連盟、派遣実績など）をBFJホームページに掲載していますので、ぜひご覧ください。

さて、世界野球ソフトボール連盟（WBSC）はU-12、U-15、U-18、U-23、女子のワールドカップをカテゴリーごと隔年で開催しており、アジア野球連盟（BFA）はそれぞれの前年にU12、U15、U18のアジア選手権、女子のアジアカップをワールドカップの予選を兼ねて開催しています。U-23とプレミア12は世界ランキングに基づきWBSCが出場国を指名しています。他にBFAはアジア選手権大会やアジアベースボールカップなどを開催しています。また、これら以外にも、国際大学スポーツ連盟（FISU）の世界大学選手権大会、日米大学野球選手権大会などが定期的に開催され、1年間に概ね5～8大会が世界各地で行われています。そして、2018年においては、下記のとおり9大会に18人の国際審判員が派遣され、世界各地で活躍しました。

国際審判員は、国際大会でジャッジするために、国内において様々な準備を重ねています。審判技術、体力、国際ルール等への対応といったグラウンドに直結する要素を研鑽することはいうまでもありませんが、語学（英語・スペイン語）、参加する国の歴史や文化、政治体制、野球の歴史や普及状況など、できる限りのことを調べておくことも必要となります。そして最後には、その国の国民性までも知り尽くしてジャッジすることが、国際審判員として最も大事な取り組む姿勢となります。

この派遣レポートは、2018年に日本代表として活躍した国際審判員の活動をまとめたものです。日本の野球ファンに国際大会の様子を知っていただくとともに、今後国際ライセンス取得を目指している審判員の方々への参考になればと思います。

■2018年の国際大会と派遣国際審判員一覧

期 間	大 会 名	開 催 国	派遣審判員
6/24-6/28	第12回BFA 東アジアベースボールカップ	中国（香港）	塚田 敦夫
7/2-7/12	第42回日米大学野球選手権	USA（ノースカロライナ州）	清水 康大
7/6-7/15	第6回FISU 世界大学野球選手権	台湾（嘉義）	作本 彰 深沢 俊一
8/10-8/19	第4回W BSC U-15ワールドカップ	パナマ（ダビッド・シティ）	高橋 進也
8/13-8/19	第10回BFA U-12アジア選手権	台湾（台北）	小原 公
8/22-8/31	第8回W BSC 女子野球ワールドカップ	USA（フロリダ州）	佐藤 加奈
8/26-9/1	第18回アジア競技大会	インドネシア（ジャカルタ）	小出 嘉則 高橋 勝利 山口 智久
9/3-9/10	第12回BFA U-18アジア選手権	日本（宮崎）	佐藤 誠 佐伯謙司郎 スズーワウジヤナヤカ 西方 淳一 古川 裕宗 三浦 和幸 美濃 正隆
10/19-10/28	第2回W BSC U-23ワールドカップ	コロンビア（バランキージャ）	吉野 弘則

■国際大会と国内大会の違い

WBSC や BFA の大会では、すべての試合で Official Baseball Rules と Baseball Umpire Manual に基づいた試合運行となります。各カテゴリーの大会によっては、大会特別ルール（投球制限やスピードアップルール、映像でのチャレンジ制度等）が採用されます。

国際大会の試合時間は平均として3時間を超える試合も多く、曜日を問わず毎日連戦となり、1日2試合を担当することもあります。これらの条件は選手だけでなく、審判員にとっても過酷であり、心技体を整えて大会へ望む必要もあります。

大会期間中の言語は、すべて英語、スペイン語、開催母国語となります。とりわけ試合前の審判ミーティングや試合中の抗議対応は、「言語能力・コミュニケーション能力・自己の協調能力」が最も重要です。日本人は、特に言語に対して国際大会と同様なシュチュエーションを作って、英語で自らの考えを表現する訓練が必要です。

大会を通して、各国の審判員やスコアラー、テクニカル、その他多くの方々

と交流を深めることができるのも国際大会の魅力です。特に大会運営は、会場スタッフやボランティアの方々に運営されています。開催国の「おもてなし」を感じる良い機会でもあります。

ここで、国際大会の主なルールを紹介します。

1. アンリトンルール（暗黙のルール）

- ① 初回からの送りバントはしない。
 - ② 大量得点差（7点差以上）の時は、盗塁やスクイズをしない。また、牽制球も投げない。
 - ③ 相手国との実力差がある時は、変化球は投げずストレートのみ。
 - ④ 相手国の面子を潰してはならない。本塁打等でのガッツポーズは慎む。
 - ⑤ 打席の後ろを覗き捕手のサイン、動作を盗み見してはいけない。
 - ⑥ 大差の試合で控え選手を頻繁に出場交代させてはならない。
- ※ 国際大会では、相手国をリスペクト（敬意）することが求められます。

2. グラウンドルール

- ① プレーヤーとコーチ（ベースコーチを除く）は、試合中はダッグアウトにいないといけない。
- ② 次打者のみグラウンドに出ることが認められる。
- ③ すべての用具は、ダッグアウトに入れておくこと。
- ④ 試合中にウォームアップのためにフィールド内に出てはならない。

3. 例外なルール

- ① 監督の申し出による申告故意四球の採用
- ② スピードアップルール
 - (a) 走者がいない場合、投手は12秒ルールを採用
 - (b) 準備投球は8球以内とする。
 - (c) ヘッドコーチまたはコーチが1試合にマウンドに行ける回数は3回に制限し、45秒以内とする。延長回に入った場合は、3イニングで1回のみ許される。
内野手が投手の元へ行けるのは、1イニング1回で1人のみ（捕手は除く）
 - (d) 攻撃側のタイムは1試合で3回まで、延長回に入った場合は3イニングで1回とする。

■審判ミーティング・使用するスタジアムの確認

試合での審判メカニクスや試合運行の注意事項、また使用する球場のグラウンドルールを確認します。

試合前日や試合前を利用して、審判技術の確認なども行います。





■各大会の写真・派遣レポートの抜粋

●BFA 東アジアベースボールカップ





【所感より】

大会期間中、英語を用いて多くのコミュニケーションをとることができました。また夕食後の二次会等では、「多くの楽しさ」「多くの笑い」を得て、前向きな意見交換・交流を行いました。

●日米大学野球選手権



【所感より】

雨天順延に伴い、予備日の最終戦は MLB アトランタブレーブスの本拠地

「サントラストパーク」で球審を担当することができました。仲間の良い判定には、自分の大腿部を叩いてお互いを鼓舞しあいながら試合を進行しました。

●FISU 世界大学野球選手権





【FISU（国際大学スポーツ連盟）について】

FISU では、これまで政治的・歴史的な背景を踏まえ、学生スポーツという趣旨から国同士の戦いではなく、大会を世界の学生が一緒に楽しむ場としての位置づけを重要視しています。そのため、FISU 賛歌（Gaudeamus Igitur 「だから愉快地にやろう」）を国歌の代わりに表彰式やメダル授与式に用いています。

●WBSC U-15 ワールドカップ



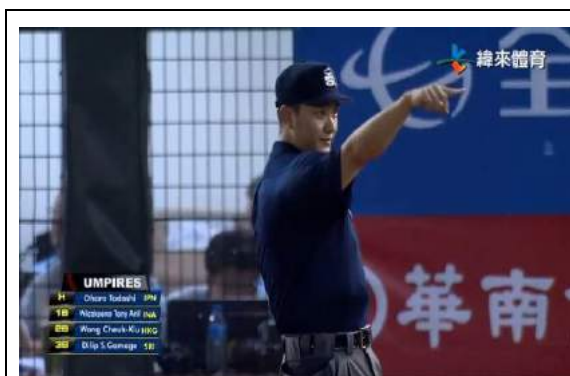


【所感より】

TC（テクニカルディレクター）の話において、試合を割り当てする中で対戦国の言語内容を理解できるか、または話せるかどうかも重要であるそうです。抗議の際の対応やコミュニケーション、選手交代の通告等でも必ず必要であり、審判技術と同じように鍛錬していく重要性を感じました。

●BFA U-12 アジア選手権



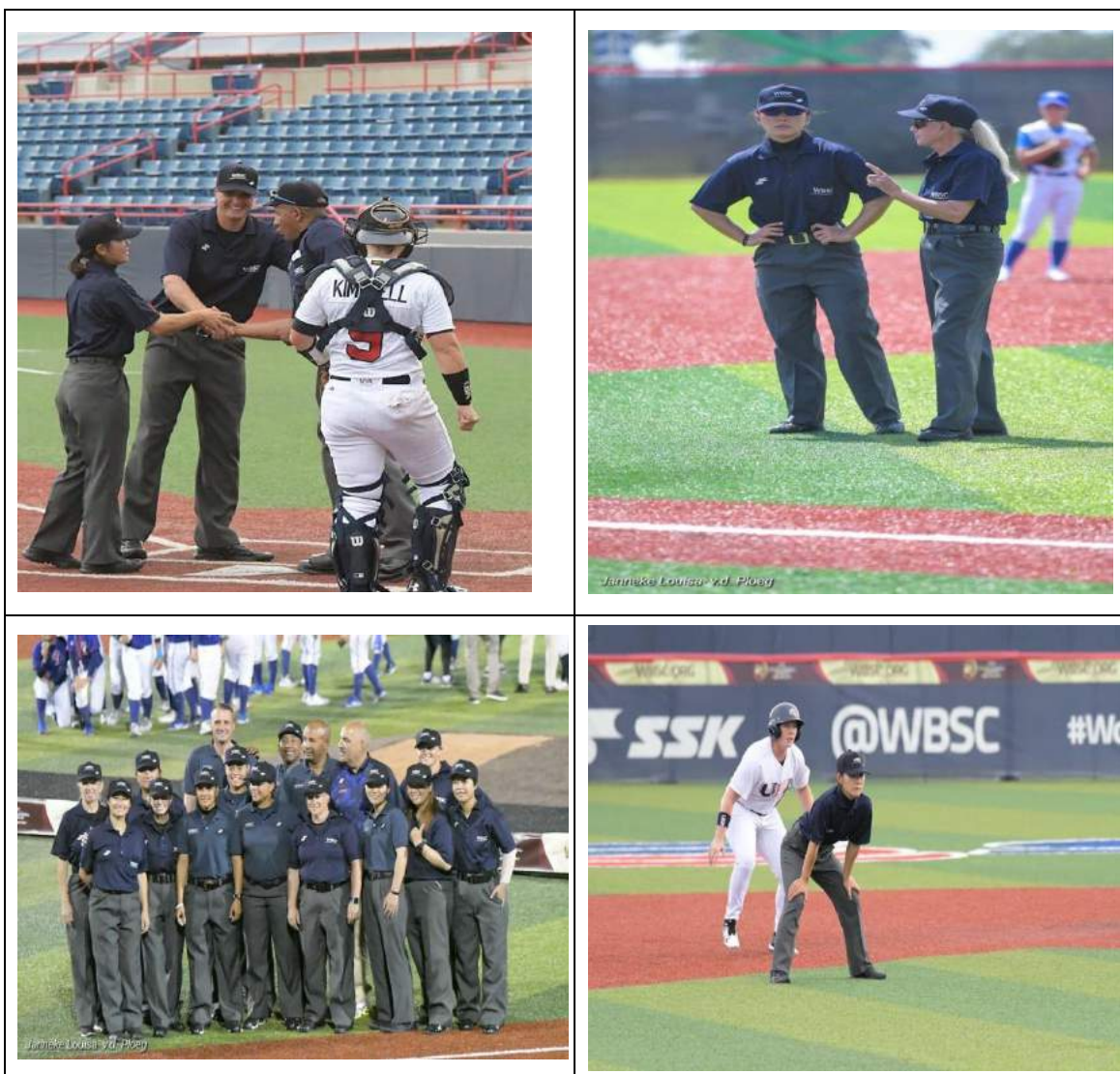


【審判技術等より】

軟式球を使用していた大会でしたが、使用経験のない国でも特に対応には問題なく、プレイをしていました。3人制でのメカニクスが中心となりましたが、アイコンタクトや発声を基本にお互いのプレイをカバーすることができました。

●WBSC 女子野球ワールドカップ





【チャレンジ制度（リプレイ検証）について】

今大会では、映像を使用してのチャレンジ制度が採用されました。いつも以上にクロスプレイには緊張感があり、チャレンジを要求され映像が確認されるまで、非常に時間が長く感じられました。今大会では27回のチャレンジがあり、10回は判定どおり、7回は確認が取れず、10回が判定が変わる内容の結果でした。

●アジア競技大会

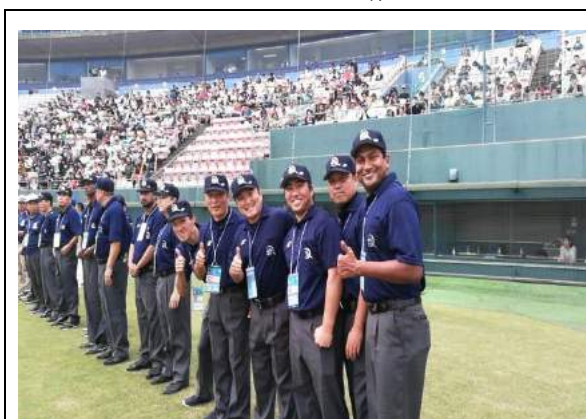




【大会運営について】

アジアのオリンピックとあって、現地の空港に到着してからは専用ブースや警察・ボランティアスタッフ等の誘導があるなど、大会運営が国をあげて実施されていることに感銘を受けました。インドネシアの方々の「おもてなし」の気持ちをととても感じる大会でした。2020年の東京オリンピックに向けて、日本も参考にすべきであると思います。

●BFA U-18 アジア選手権





【開会式において】

日本代表として、佐藤誠さんが開会式で「Umpire の宣誓」を担当いたしました。英語での宣誓でしたが、前日に必死の思いで覚え何とか無事に大役を務めることができ、一生の思い出となりました。開会式後には、レフトフィールドで審判員全員での「GO STOP CALL」の基本を実施し、感慨深い気持ちで大会へ望むことになりました。

●WBSC U-23 ワールドカップ



【所感より】

両国の選手紹介及び審判員の紹介、国歌斉唱、ホームプレートミーティングなど高まる高揚感は格別なもので、帽子を胸に当て両国にリスペクトと公平を誓うことに素晴らしさを感じ取る瞬間を改めて感じる事ができました。気持ちの上でも初心に戻り、元気よくハッスルすることができた最高の大会となりました。

●大会のアラカルト

閉会式後、国際的な野球普及のため、自分たちの審判用具を開催国のローカル審判へ寄贈したりしています。また各国の国際審判員や運営スタッフ・ボランティアの方々との交流はかけがえのない思い出です。





2019 年も WBSC また BFA の各カテゴリーにおいて、各種国際大会が実施される予定です。また、2020 年の東京オリンピック予選や世界野球 WBSC プレミア 12 も開催されます。

国際大会で感じたことや新たな発見、国際交流の様子など BFJ のホームページに掲載していければと思います。

今後も国際審判員の活躍を応援していただけると幸いです。

以上